

千住ミルディス「屋上広場」 生物多様性調査報告書／2020 夏期編

株式会社 生態計画研究所

1. 調査の概要

1) 調査の目的

- ①生物多様性の視点から、「生きものの視点での自然環境調査」「生物多様性の評価」「その土地のポテンシャルに見合った形での、生物多様性の保全・価値の向上」を目指す。
- ②調査結果を活かした生物多様性の保全・価値向上への取り組みに関する提案を行う。

2) 調査方法

- ①調査レベル：主任研究員クラス1名、及び研究員クラス1名による現地調査
- ②調査地：千住ミルディス「屋上広場」
- ③調査対象：鳥類、チョウ・トンボ類等の大型昆虫類を中心に、姿・声・行動等を確認する。
両生類、は虫類、魚類、ほ乳類等は適宜調査する。
植生は開花状況、結実状況等を確認する。

④調査方法：

- 1： 6:30～7:30 鳥類中心
- 2： 8:20～10:40 昆虫類、鳥類中心
- 3： 11:00～14:15 昆虫類、鳥類、植生中心
- 4： 14:15～15:30 昆虫類、鳥類中心

2. 調査結果

1) 調査日程

2020年8月25日 6:30～15:30

2) 調査結果 確認種の一覧は、次の表-1～表-3 参照

鳥類：1目2科2種

昆虫類：4目11科12種

開花・結実植物：18科22種

表-1 現地調査時に確認した動物類の一覧(2020.8.25)

赤字:屋上のみで確認

分類群	目名	科名	種名	調査エリア名称		
				屋上 広場	東京都 R L	環境省 R L
昆虫類	トンボ	ヤンマ	ギンヤンマ	●		
		トンボ	シオカラトンボ	●		
	バッタ	ヒバリモドキ	シバズ	●		
		カネタタキ	カネタタキ	●		
		バッタ	ショウリョウバッタ	●		
	チョウ	セセリチョウ	イチモンジセセリ	●		
		アゲハチョウ	キアゲハ	●		
		タテハチョウ	ツマグロヒョウモン	●		
	コウチュウ	コガネムシ	コアオハナムグリ	●		
		テントウムシ	ナミテントウ	●		
	アリ	アリ	クロヤマアリ	●		
		ツチバチ	キオビツチバチ	●		
	総確認種数				12	0
総確認種数				4目11科12種		

凡例 「●」現地で確認 「★」死体・痕跡などを確認 「△」ヒアリングでの確認
 ※種名や掲載順については、「日本産野生生物目録(環境庁編)」に従った。

表-2 現地調査時に確認した動物類の一覧(2020.8.25)

赤字:屋上のみで確認

分類群	目名	科名	種名	調査エリア名称		
				屋上 広場	東京都 R L	環境省 R L
鳥類	スズメ	カラス	ハシブトガラス	●		
		セキレイ	ハクセキレイ	●		
総確認種数				2	2	0
総確認種数				1目2科2種		

凡例 「●」現地で確認 「★」死体・痕跡などを確認 「△」ヒアリングでの確認
 ※種名や掲載順については、「日本産野生生物目録(環境庁編)」に従った。

表-3 現地調査時に確認した植物類の一覧(2020.8.25)

科名	種名	学名	開花	結実	備考
アブラナ	ミチタネツケバナ	<i>Cardamine hirsuta</i>		○	
ユキノシタ	アジサイ	<i>Hydrangea macrophylla</i>	○		植栽
バラ	シモツケ	<i>Spiraea japonica</i>	○		植栽
カタバミ	オッタチカタバミ	<i>Oxalis stricta</i>	○	●	
トウダイグサ	コニシキソウ	<i>Chamaesyce maculata</i>	○	○	
	ユーフォルビア	<i>Euphorbia</i>	○		植栽
ミカン	キンカン	<i>Fortunella japonica</i>	○		植栽
クマツヅラ	ランタナ	<i>Lantana camara</i>	○		植栽
シソ	ラベンダー	<i>Lavandula sp.</i>	○		植栽
	ローズマリー	<i>Rosmarinus officinalis</i>	○		植栽
	サルビア・レウカンサ	<i>Salvia leucantha</i>	○		植栽
ナス	イヌホオズキ	<i>Solanum nigrum</i>		○	
フジウツギ	ブツレア	<i>Buddleja davidii</i>	○		植栽
ゴマノハグサ	トキワハゼ	<i>Mazus pumilus</i>	○		
ハマウツボ	ナンバンギセル	<i>Aeginetia indica</i>		○	
スイカズラ	アベリア・ホープレイズ	<i>Abelia × grandiflora 'Hopleys'</i>	○		
キク	チチコグサモドキ	<i>Gnaphalium pensylvanicum</i>	○		
アヤメ	ニワゼキショウ	<i>Sisyrinchium atlanticum</i>	○		
イネ	メヒシバ	<i>Digitaria ciliaris</i>	○		
	ススキ	<i>Miscanthus sinensis</i>		●	植栽
カヤツリグサ	ヒメクグ	<i>Cyperus brevifolius var. leiolepis</i>	○		
総確認種数		17科21種			

I 鳥類 2科2種

*周辺 300m内の緑地を対象に別途行った生物多様性調査の結果から算出

エリア内では、ハシブトガラス、ハクセキレイの2科 2種を確認した。

ハシブトガラスは近隣のビルや緑地との移動時に立ち寄ったと考えられる。

ハクセキレイは昨年と同様、1個体が確認された。建物の隙間などでも繁殖することがあるため、屋上広場エリア周辺で繁殖する可能性もあると考えられる。

スズメは今回は確認されなかったが、これまでの調査で採食場所として草地を利用することがわかっている。

地域ポテンシャルの33%*が屋上広場に飛来しており、実際にはより多くの種が利用していると推察される。

野鳥が好む実のなる低木の移植等で周辺に生息するシジュウカラ等の利用が期待される。



II 昆虫類 11科12種

*周辺 300m内の緑地を対象に別途行った生物多様性調査の結果から算出

今回の調査では、地域ポテンシャルの32%*にあたる11科12種が確認された。これは昆虫の活動が低下する秋期に行った昨年度よりさらに減少となっている。原因としては猛暑による高温のための活動低下、またチョウ類などの吸蜜植物となるアベリア・ホープレイズの開花数が例年より少ない印象だったため、その影響が考えられる。

トンボ類では、シオカラトンボやギンヤンマが確認された。シオカラトンボは屋上に池があるので産卵のために訪れていた可能性がある。また、移動の際に水面の反射光に反応してその場所へ降りてくる習性があり、午前中芝生へ散水されていたのでその反射光に反応した可能性もある。ギンヤンマは広く明るい水辺を好むため、付近の荒川へ移動途中の個体であることが予想される。

バッタ類では、シロツメクサの草地にショウリョウバッタのメスが確認された。昨年度も確認されていることから、屋上の草地で繁殖している可能性が高い。

チョウ類では、キアゲハ、イチモンジセセリ、ツマグロヒョウモンが確認された。イチモンジセセリ、ツマグロヒョウモンはアベリア・ホープレイズで吸蜜する様子が確認された。キアゲハも同様にアベリア・ホープレイズに飛来していた可能性が高いが、吸蜜している様子は確認できなかった。

コウチュウ類では、昨年に引き続きコアオハナムグリがブッドレアに飛来し、花粉や花蜜を食べる様子が見られた。

ハチの仲間では、キオビツチバチが確認されたが、昨年度と比較すると確認種数が大幅に減っている。吸蜜できる花が少なく、アベリア・ホープレイズも開花数が少ない印象だったため、屋上に飛来してもすぐに移動している可能性が高い。



ショウリョウバッタ



キアゲハ



コアオハナムグリ／ブッドレア



ツマグロヒョウモン／アベリア・ホープレイズ

Ⅲ 開花・結実植物 18科22種

開花・結実が見られた植物は、18科22種であり、前年に比べ9種増加した。これは昨年度、開花・結実する種の減少する秋期に実施したためと考えられる。

植栽リスト以外ではミチタネツケバナ、オッタチカタバミ、コニシキソウ、イヌホオズキ、トキワハゼ、チチコグサモドキ、ニワゼキショウ、メヒシバ、ヒメクグ、ナンバンギセルが確認された。

昆虫類、特にハチ類やチョウ類に蜜源植物として利用されていたものは、ホープレイズ（斑入りのアベリア）、ブットレアなどであった。鳥類では、メヒシバ、ヒメクグなどの種子がスズメに利用されているものと思われる。

以上